

仮設住宅4団地が着工（熊本県）

宇城市、氷川町に70戸建設



仮設住宅の建設が始まった当尾仮設団地＝宇城市松橋町の当尾グラウンド

熊本県は3日、宇城市及び氷川町で令和8年熊本地震の被災者のための建設型応急住宅に着工した。宇城市では松橋町の当尾小学校前当尾グラウンドなど3団地50戸。氷川町では1団地20戸を建設し、9月中の入居を目指す。7月28日の地震発生から約1週間で建設工事の準備を整えた。

宇城市では、松橋町曲野に建設する（仮称）宇城市当尾仮設団地が敷地面積約6803㎡に木造平屋4棟10戸（延床面積355.95㎡、1DK×8、2DK×2、うち1棟はみんなの家（談話室））。小川町南新田の（仮称）宇城市小川町仮設団地は、敷地面積約5900㎡に木造平屋8棟30戸（延床面積950.53㎡、1DK×23、2DK×7、談話室は既存利用）。

豊野町糸石の（仮称）宇城市豊野仮設団地は、敷地面積約1624㎡に木造平屋3棟10戸（延床面積355.95㎡、1DK×8、2DK×2、うち1棟は談話室）。（一社）全国木造建設事業協会が施工し、9月下旬の入居を見込んでいる。

氷川町の高塚に建設する（仮称）氷川町吉本仮設団地は、敷地面積約3260㎡に軽量鉄骨造平屋8棟20戸（延床面積631.80㎡、2K×15、3K×5、談話室検討中）。（一社）プレハブ建築協会が施工し、9月上旬の入居を予定している。